

第1回ユネスコ講演会

NPO 法人 森は海の恋人 畠山重厚氏をお迎えして、講演会を実施しました。

畠山氏は、宮城県気仙沼市で牡蠣の養殖業を営む漁師です。牡蠣の生育に疑問を抱いた畠山氏は、その原因を探るべく大学等様々な機関に研究を依頼しました。そこで分かったことは、森から流れ海へそそぐ川に、牡蠣の生育に必要な栄養分が足りなくなっていたことに気が付きます。そこから、「漁師が森に木を植える」活動をはじめ、現在に至っています。

今回、令和となったことから、天皇にゆかりのある樹木のお話しをしていただきました。その豊富な知識から多くを学んだ貴重な体験となりました。



今まで国際理解講演会として実施していた国際理解講演会は、ユネスコスクールとなった本年度より、ホールスクールでの学びに広げる活動として、国際理解コースだけでなく、普通科3年生全員を対象にした講演会に生まれ変わりました。

生徒の感想より

私は最初、森は海の恋人という言葉聞いて、どういうことか分かりませんでした。30年も前から山に行って木を植え活動を行っていて、今年は「梓」という木を植えたそうです。梓は令和天皇を象徴する樹木で、船で使われる櫓に使われている木だということです。梓はしなやかで強く櫓に適しており文武両道の意味を持つとのことでした。物事の本質に理系や文系はなく、双方を行き来していかなければいけない。物事の意味を知るには、言葉の意味を知らなければいけないという言葉に心を打たれました。